

令和6年度 富山高等学校アクションプラン-5-

重点項目	探究活動の充実	
重点課題	探究的学習の深化	
現 状	探究科学科設置から10年が経過し、探究科学科の活動指導に関しては大筋の方向性が定まってきた。一方で、普通科の総合的な探究の時間においても自ら課題を発見し、教科での学びを生かしながら論理的に最適解を考えていく探究的な活動が求められている。探究科学科と普通科のいずれにおいても、社会や事象を俯瞰的に眺め「課題」を発見し、「対話」や「協働」的作業を通して解決していく力や、知識や情報を再構成して「新たな価値」へと繋げていく力を育む効果的な教育課程が求められている。	
達成目標	①「対話」と「協働」的な学びにより深められる「主体的行動」 ※单元ごと、及び成果発表後の自己評価 「富山高校で育む10の力」ルーブリックを活用し、「対話」的かつ「協働」的活動において、ルーブリック評価の結果で、4以上の生徒が90%以上となるようにする。	②「考えるための技法」により深められる探究的学習 ※各学期末、及び成果発表会後の指導者評価 評価の実施が年間を通して100%となるようにする。
	<p>1. 探究的な学びが今後の進路や社会活動に深く関わることを理解させると共に、自己の「主体的行動」だけでなく他者との「対話」や「協働」によりその学びがより深まることを生徒が実感できるように指導を計画する。</p> <p>2. 「探究基礎Ⅰ」「探究基礎Ⅱ」「理数探究」「総合的な探究の時間」及び「未来〇学」の指導内容・指導方法を十分研究し、授業担当者間で共通理解と綿密な連携を計りながら実施する。</p> <p>3. 探究科学科の巡検研修や東京方面研修、普通科のフィールドワーク等において、教室での学びがより高度に実践されるよう計画すると共に、事後の自己評価により確認する。</p> <p>4. 情報機器を適切に操作する技能を習得させ、取得した情報を扱うための「情報倫理」や探究的な活動を行う上での「研究倫理」を理解させる。</p> <p>5. 取得した情報を「比較」したり「分類」したり、「関連付ける」などの「考える」ための活動を随時取り入れたか学期毎に確認する。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)